

メキシコペソと新政権

今月末にアルゼンチンで開かれる G20 は市場の注目を集めている。そこでの米中首脳会談で米中貿易戦争がエスカレートするのか、休戦状態になるのかが決まる可能性があるからだ。

だがそこでは米中貿易戦争だけが話し合われるわけではない。他にも重要な問題がある。その中の一つに新しい NAFTA 成立のための条件が整うかどうかがある。

米国、カナダ、メキシコは新しい貿易協定の締結に合意したが、まだサインに至っていない。メキシコとカナダは米国が課す鉄鋼とアルミニウムの関税の撤廃を条件にしているが、トランプ大統領がまだ応じないのだ。話し合いで NAFTA の修正版である新しい貿易協定の発効の手続きが進むかどうか。

NAFTA と言えば、メキシコペソだ。NAFTA 廃棄を主張するトランプが大統領に就任する前から NAFTA の運命はメキシコペソの動向に大きな影響を与えてきた。就任直後にペソは対ドルで 22 を超えたが、合意の可能性が強まるとペソは 17 まで買われ、その後は可能性の強弱により、その間を変動した。

一方で今年 7 月、メキシコでは新大統領が誕生した。左翼のナショナリストと言われる大衆に人気のある政治家だ。ペソは次第に新政権の政策との関係を深めていく。最初は左翼政権への警戒があり売られたが、改革期待から買われる局面もあった。そして先月メキシコシティ近郊の建設中の空港を中止する決定をした。既に巨額の資金をつぎ込んだプロジェクトだが住民投票で決めた。ペソは下落傾向を強め、現在は対ドルで 20 を超えている。これはトランプ大統領就任直後の水準に近い。

NAFTA の修正版で合意されれば、ペソ高期待が大きかっただけに 20 越えは意外でもある。その背景にはドル金利の上昇があることはもちろんだが、新政権の政策に対する投資家の不信が強いこともある。12 月 1 日の大統領就任を控え、そうしたセンチメントが市場を支配している。

だが新政権が実際に発足して間もなく来月中旬には予算案が明らかになる。大統領と異なり、財務大臣は実務派で市場の信任もある。GDP の 1% の基礎収支の黒字が見込まれる。予算案の内容次第で市場の信頼が戻る契機にもなる。

ドルペソは直近では 20.47 だが、20 越えが長く定着するとは思えない。ドル金利も 12 月の利上げの後、来年は利上げのサイクルが鈍化する可能性が高い。新政権の政策も左翼ナショナリストのレッテルで見過ぎている感じがする。来年は 17 に向けてペソは買われる展開になるのではないかと。